



二重敬語と敬語連結

二重敬語

一つの語について、同じ種類の敬語を二重に使ったものを「二重敬語」という。

例えば、「お読みにられる」は、「読む」を「お読みに」で尊敬語にした上で、更に尊敬語の「……れる」を加えたもので、二重敬語である。「二重敬語」は、一般に適切ではないとされている。ただし、語によっては、習慣として定着しているものもある。(文化審議会答申「敬語の指針」)

「お(ご)～になる」(尊敬表現) + 「れる」「られる」(尊敬の助動詞)



お立ちになられる

「立つ」→「立たれる」と、「お～になる」を二重に使用

同様の例として



お立ちになる

×お帰りになられる→○お帰りになる

×ご覧になられる→○ご覧になる

×おっしゃられた→○おっしゃった

×ご希望になられる→○ご希望になる、希望される

×お見えになられました→○お見えになりました

×お亡くなりになられた→○亡くなられた

単語自体に敬意が含まれている例



会員各位様



会員各位

(各位に皆様の意がある)

※「各位」は本来敬語であるが、敬語意識が薄れる傾向にある。
「各位様」は二重敬語で不適切とされるが、「お客様【取引先様】各位」
など許容度の高いものもある。(『明鏡国語辞典』第三版)



人事課様御中



人事課御中

※社長、部長などは敬語の一種とみなされるので、社長様、部長様とは
言わない。

習慣として定着している二重敬語

尊敬語

- ・お召し上がりになる(「食べる」→「召し上がる」と、「お～になる」を二重に使用)
- ・お召し上がりください(「食べる」→「召し上がる」と、「お～ください」を二重に使用)

謙譲語

- ・お伺いする(「聞く」→「伺う」と、「お」をつける)
- ・お願いいたします(「お～する」と、「いたす」を二重に使用)

「ます」+「です」



お越しいただけますでしょうか



お越しいただけますか



敬語連結

二つ(以上)の語をそれぞれ敬語にして、接続助詞「て」をつなげたものは、上で言う「二重敬語」ではない。

このようなものを、ここでは「敬語連結」と呼ぶことにする。例えば、「お読みになっていられる」は、「読んで」の「読む」を「お読みに」に、「いる」を「いられる」にしてつなげたものである。つまり、「読む」「いる」という二つの語をそれぞれ別々に敬語(この場合は尊敬語)にしてつなげたものなので、「二重敬語」には当たらず、「敬語連結」に当たる。

許容される例

- ・お読みになったださる(「読んでくれる」の「読む」「くれる」をそれぞれ別々に尊敬語にしたもの)
- ・お読みになっただく(「読んでもらう」の「読む」を尊敬語に、「もらう」を謙譲語にしたもの)
- ・御案内してさしあげる(「案内してあげる」の「案内する」「あげる」をそれぞれ別々に謙譲語にしたもの)

(文化審議会答申「敬語の指針」)

